釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和６年（2024年）８月19日発行　VOL 21

「人間と人間」の関係

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

学校閉庁日が明け、本日から学校が本格稼働しています。教職員は自分や家族のために時間を使い、充実した休暇を過ごしたようです。２学期に向けて、授業や行事、学級づくりの準備を精力的に始めています。部活動も再開です。新チームとして活気に満ちた声が体育館や教室から聞こえてきます。そして、本日は芦野小学校の高畠校長を講師としてお迎えし、生徒理解の研修が行われます。１学期に生徒指導部が企画し実現した研修です。２学期に向けて本格的に動き始める日に研修が行われる。「自立した学習者」を目指す本校らしい１日になりそうです。２学期も職員室で、授業づくりや授業の反省に加えて、授業や行事、部活動で頑張る生徒の姿について語り合う声をたくさん聞きたいと思います。

さて、19号において、今年度の全国学力・学習状況調査について記載しました。生徒質問紙調査において、教員の指導や支援に関する質問項目が次の通り３つありました。

① 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。（＋6.2）
② 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。（＋2.5）
③ 先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか。（＋3.4）

これらの質問項目は全て全国平均を超えています。本校の教員は、毎日遅くまで残って熱心に教材研究をしたり、自身の教師力を高めるために各種研修に参加したりして、授業づくりについて研鑽しています。しかし、それだけでは、このような質問紙調査の結果にはならないと思います。授業を参観して感じることは、「『人間と人間』の関係」を大切にしていることです。授業者として、教師である前に、生徒を人間としてリスペクトしている、つまり、生徒一人一人が人格をもった存在であることを尊重する態度が徹底されていることです。例えば、３学年の数学の授業を参観していたとき、ある生徒が間違った解答を発言しました。そのとき、授業者である教師は、「みんながここでつまずきます。〇〇さんが誤答を示してくれたことで、この問題に対するみんなの理解が深まります。どうもありがとう」と言って、更に誤答に至った経緯を当該生徒に説明させました。「みんなのことを大切にしているよ」という素敵な姿勢がこのような場面を創り出したのだと思います。

２学期は１学期以上に授業を参観したいと考えています。そのとき、授業者である教師に生徒への人権尊重やリスペクトを求めるのであれば、校長にもそれが求められるという同型性を授業参観で意識することが重要だと思います。「校長と教諭」という関係である前に、「人間と人間」として教師をリスペクトする。そうすることで、教師の小さな言動の中に、生徒を人間として大切にしていることにつながるものが見えるのだと思います。